

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●19日のWTI原油は、前日比0.89ドル安の62.68ドルとなった。米エネルギー情報局(EIA)が今週発表した週報でディスティレート(留出油)在庫の大幅積み増しが示されたことや、石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」による増産を背景に需給が緩むとの警戒感が広がる中、朝方から売りが先行した。

●22日のWTI原油は、前日比0.40ドル安の62.28ドルとなった。イラク石油販売公社(SOMO)は21日、石油輸出国機構(OPEC)に非加盟産油国を加えた「OPECプラス」が自主減産段階的緩和を受け、同国の原油輸出量が増加したと表明した。有志8カ国は今年、10月の産油量を日量13万7000バレル増やすことで合意しており、需給の緩みを意識した売りが先行した。

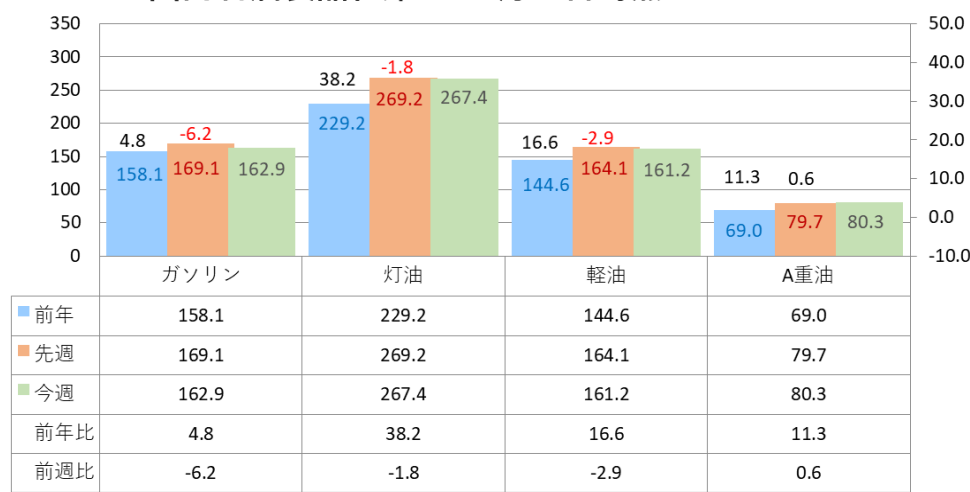
●23日のWTI原油は、前日比1.13ドル高の63.41ドルとなった。イラク政府と同国のクルド自治政府は22日、トルコ経由での原油輸出再開に向け石油企業各社と合意したという。2023年3月から停止していたクルド自治区からの原油輸出(日量約23万バレル)が再開されるとの観測が広がった。一方、その後石油企業2社が債務返済保証を求め、23日に合意は頓挫。一連の報を受け、供給過剰懸念が後退し、相場は買い戻しで反応した。

●24日のWTI原油は、前日比1.58ドル高の64.99ドルとなった。米エネルギー情報局(EIA)が午前に発表した週間原油在庫統計(19日までの1週間)によると、原油在庫は前週比60万バレル減と、市場予想(20万バレル増=ロイター通信調査)に反して小幅な取り崩しとなった。ガソリン在庫は110万バレル減と、市場予想(20万バレル増)を大幅に上回る取り崩しを記録。ディスティレート(留出油)は170万バレル減と、市場予想である50万バレル減を上回った。これを受け需給の引き締め観測が強まり、発表後は買いが先行した。

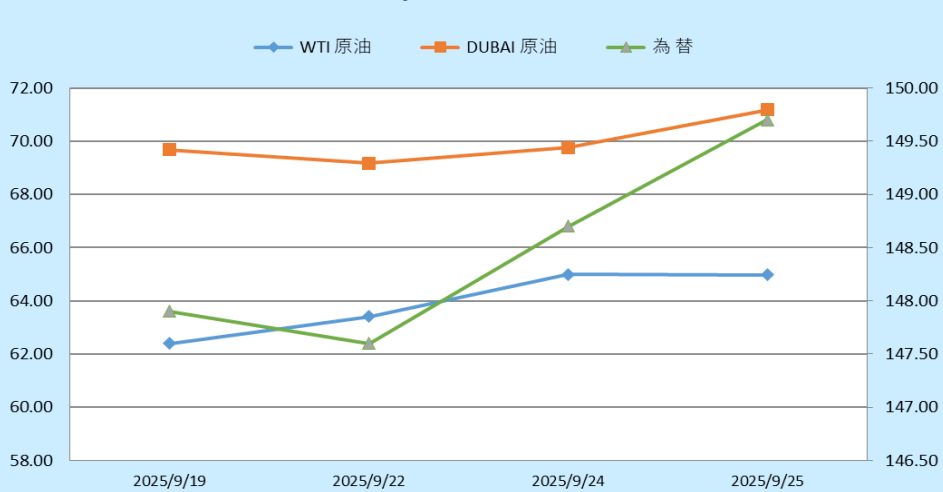
●25日のWTI原油は、前日比0.01ドル安の64.98ドルとなった。米商務省が25日発表した4~6月期の実質GDP(国内総生産)確定値は、季節調整済み年率換算で前年比3.8%増と、改定値(3.3%増)から大幅に上方修正された上、市場予想(3.3%増)も上回った。これを受け、FRBが景気下支えのための追加利下げに慎重になり、エネルギー需要も伸び悩むとの見方が広がり、原油が売られた。

9月26日 12:00現在 WTI原油 65.24ドル 為替 1ドル 150.79円

国内石油製品在庫 9月20日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 関連グラフ



【次回価格変動予想】

ガソリン	➡	1.5 ~ 2.0
灯油	➡	1.5 ~ 2.0
軽油	➡	1.5 ~ 2.0
A重油	➡	1.5 ~ 2.0
LSA	➡	1.5 ~ 2.0

※原油コスト「+1.5円~+2.0円」
※激変緩和補助金(ガソリン・軽油)「10.0円」前週比±0円
※現時点での予測です。

【市況総括】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「-0.5円」、補助金は、「±0円」、都合「全油種 -0.5円」の改定となった。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの22日時点の小売価格平均は175.3円となっている。

《来週》次回の元売り改定は、原油コストは「+1.5円~+2.0円」、補助金は「±0円」で、都合「+1.5円~+2.0円」の改定予測となっている。

【次世代エネルギーコラム】 < 島根県など、ENEOSと森林クレジットで連携 >

島根県は29日、森林を活用した脱炭素の実現に向けてENEOSと包括連携協定を結んだ。県の面積の約8割を占める豊かな森林資源を活用。国による二酸化炭素(CO2)排出枠の認証「J-クレジット」による脱炭素化と、県内の循環型林業の推進につなげる。連携協定には県森林組合連合会、県森林協会、県林業公社も参加。J-クレジットの売却収入で間伐や林道整備など県内の森林整備を進める。丸山達也知事は「県が取り組む循環型林業を大きく推進する力になる」と期待を示した。

ENEOSはグループで年間2500万トン(2023年度)のCO2を排出している。30年度までに13年度比46%減を目標に排出量削減に取り組んでおり、島根県の森林由来のJ-クレジットも活用する。具体的な購入量はこれから検討する。

同社として、県全域を対象にした包括連携協定は初めて。村橋英二常務執行役員は「島根県の循環型林業に共感している。地域経済の発展に貢献したい」と説明した。